

様式 4

令和 6 年度第 2 回 富士見市生涯学習推進市民懇談会 議事録						
日 時	令和 7 年 3 月 1 8 日 (火)		開会	午後 3 時 0 0 分		
			閉会	午後 4 時 3 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 集会室					
出 席 者	参加者	出井(隆)氏	新井氏	木原氏	佐々木座長	田屋氏
		欠	○	○	○	欠
		出井(あ)氏	山崎氏	深瀬氏	小谷氏	森本氏
		○	○	○	欠	○
	事務局	生涯学習課 課長、主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 なし)					
議 題	1 開 会 2 あいさつ 3 内 容 (1) 生涯学習に関するアンケートについて (2) 今後のスケジュールについて 4 そ の 他 (1) 次回の懇談会について 5 閉 会					

議 事 内 容

	1 開 会 開会にあたり、生涯学習課長からあいさつを行った。 2 あいさつ 佐々木座長からあいさつを行った。 3 内 容 (1) 生涯学習に関する市民アンケートの結果について説明を行った。
参加者	Q2の年代別の結果について、60代以降のWEBでの回答者の割合を教えてください。
事務局	WEBでのアンケートの回答率は、60代が35%、70代が12%、80代が6%、90代が0%、年代回答なしが33%であった。補足にはなるが、10代が80%、20代が71%、30代が82%、40代が56%、50代が67%である。
参加者	60代の過半数が働いており、実質的には70代・80代が生涯学習のメイン層であると認識している。その世代のWEBでの回答率が想像より低いと感じる。
事務局	公民館等へアンケートの配布・回収の協力依頼を行っており、施設の職員が利用者へ直接アンケートを配布した施設もある。公民館等での利用者層も高齢化しているため、その結果が紙での回答率の高さに表れていると考える。
参加者	富士見市プレミアム付き商品券も今回はWEBでの販売・購入になったが、市の想定よりも応募が少なく、2次抽選も行われていた。そのことからまだWEBに対して抵抗がある方が多いように感じる。
参加者	情報の入手方法の選択肢にホームページとインターネット(SNSなど)が別の選択肢に分かれているが、ホームページもインターネットの1つではないか。
事務局	ご認識のとおりである。
参加者	Q7-1のホームページとインターネット(SNS)の回答率を合計すると70%弱になる。これは高い割合になるのではないか。
参加者	SNSというとLINEとかX(旧:ツイッター)などの認識でよいか。
事務局	ご認識のとおりである。

参加者	若い世代は紙ではなくWEBの方がアンケートに回答しやすいと感じる。自分もそうだが、今回のアンケートはSNS経由でお知らせが来て、その場で回答できたという手軽さがとてもよかった。
事務局	今回のWEBアンケートの実施にあたって、富士見市公式LINEを利用してアンケート実施の周知を行った。お知らせ配信後すぐに、幅広い世代の方から回答をいただくことができた。アンケートを実施するまでは市公式LINEの有用性を実感したことはなかったが、幅広い世代の興味関心がある方へ直接お知らせを送ることができる良い手段であると認識した。
参加者	富士見市公式LINEは、なにをきっかけに登録している人が多いのか。
事務局	こちらでは把握していない。
参加者	富士見市の情報をたまに検索するが、X（旧：ツイッター）やホームページを中心にしており、公式LINEの存在は本日初めて把握した。情報は探すよりも届く方が便利であり、この公式LINEの周知は重要になってくるのではないかな。
参加者	広報富士見に公式LINE等の案内があり、二次元コードを読み込むとページに移動するようになっているのではないかな。
参加者	自分は子育て世代にあたるが、母親同士で子供と出かける場所やイベント等の情報交換を行っている。皆、情報を欲しているのでLINEのように直接情報が届くことはとてもありがたいと思う。子育てや仕事で忙しい方に対しても、直接情報を届けることは良いアプローチになるのではないかな。
事務局	広報富士見を確認したところ、裏面にある二次元コードが公式LINEを含めたSNSアカウントへのリンクとなっている。
参加者	公式LINEから子育て応援サイトをクリックし、更にイベントカレンダーをクリックすると市内で行われているイベントが掲載されているカレンダーを見ることができる。様々なジャンルで分かれており、子育て世帯向けに特化した内容を見ることができ、とても便利な機能である。
参加者	イベントカレンダーでは、様々なジャンルごとに予定を見ることができるのは理解したが、ここに掲載されているのは市主催のイベントであるという認識でよいかな。
事務局	ご認識のとおりである。
参加者	市が関わっていることは前提になるが、若い世代も楽しめるような取り組みにつながるといいのではないかと考える。自分たちは富士見市民大学を運営しているが、運営側も参加者側も高齢化しており、いかにして若い世代に繋げていくかが課題となっている。公開講演会などで若い方にも参加して考えてもらおうと企画をしているが、自分としては近隣の

	大学の学生の中で、まちづくりへの関心があり勉強している学生とつながることが出来たらいいなと考えている。どのようにつながるか方法はまだ考えていないが、若い人も楽しめるような取り組みと一緒に考える場をつくっていったらと思っている。ひとまずできることとして、団体のホームページを作成したが、見ている人はほとんどいない。自分はフェイスブックをよく利用するため、イベントの情報をそこに掲載している。また、スタッフの要望で、登録不要で誰でも見ることができるブログを作成した。市民大学だけの話ではないが、「富士見市 イベント たのしい」などで検索した時に、すぐに参加できるような富士見市のイベント情報が出てくるようになったらいいなと思っている。
事務局	行政は情報発信をしているが、実際は情報が届いていないことが顕著に表れているのではないかと考える。情報を入手したいという方に対してどのように情報を届けるかが課題であり、その方法を変えていくべきであると考えている。
参加者	幼稚園・保育園・小学校など公的な場所を通じて、富士見市公式LINE等の情報を周知してもらえるといいのではないか。保育園経由ではチラシ等のお知らせはほとんど来ないが、子育て世帯は週末子どもを連れて近場で遊べる場所やイベントの情報を求めているため、情報発信のアプローチとして良い方法ではないか。
事務局	子育て世代向けに「子育て応援サイトすくすく子育てF U J I M I」がある。市としても子育て世帯への支援に力を入れており、子育て世帯向けのホームページは充実しつつある。しかし、このサイトを知っている人は様々な情報を見に行くことができるが、知らない人には情報が届いていないことも認識している。
参加者	せっかく調べても既にイベントが終わった後だったというケースもあるため、情報は事前に届く方がありがたい。
座 長	情報以外のことで何か気が付いたことや意見はないか。
参加者	情報入手手段として広報紙の強さを感じる。このQ 7－1の結果からも広報紙の大切さを実感した。高齢世代だけでなく、若い世代も広報紙を見ているのか。
事務局	広報紙については幅広い世代の方に回答いただいている。ただし10代・20代については、広報紙よりはホームページやインターネット（SNS）という回答が多かった。また、前の設問（Q 6）で「わからない」と回答したため、情報入手手段の設問にたどり着いていない方も多くいる。ただ、どこから情報を得られたら便利かという設問に対して、10代・20代も広報紙と回答している方がおり、読む機会があったら読んでみたいと思っている若者もいるのではないかと考えている。
参加者	次の世代に活動に参加してもらいたい、自分がその活動に興味がないと参加するための情報を入手しない。例えばイベントや講演会、セミナー等を実施して活動への参加を呼びかけると、反応は良さそうだがその

	後の活動につながっていない。情報が自分のところに来たら、関心を高めてもっとやってみようかなという気になるが、自分で情報を探しに行くのが面倒だと思う人が多い。若い世代に何か参加するメリットがないと続かない。行政から若い世代に参加することのメリットをアピールできれば、もっと若い方の参加率も上がるのではないかな。
事務局	参加してみて楽しかった等の明確なメリットをわかりやすく提示できるとよいということか。
参加者	男女共同参画についても、若い世代の関心が薄くなってきている。自分にとって身近なことが男女共同参画であるということや、女性のためになるということ、避難所における女性への配慮の必要性も変わってきていること等をもっと発信できたら、若い人にも自分事として考えてもらえるのではないかなと思っている。
参加者	アンケートの実施目的は新しい施策を作成する基になるものであると認識している。このアンケートの考察はないのか。
事務局	先程の説明のとおり、考察は行っているが内部資料としており、今回はあくまでも集計結果をお示ししている。現時点では考察をこのタイミングで公表するかは検討中である。
事務局	次の協議事項である今後のスケジュールにも関係する話になるが、第3次計画策定時にもアンケートを実施し、計画に結果や考察を掲載し、課題等を今後の施策内容につなげている。今回のアンケート結果についても、次期計画策定への掲載方法を検討している。
参加者	ここまでの話の流れで情報発信の弱さが一番話題となっており、市民が見やすいホームページや検索しやすいものを作ってほしいという話になっているが、広報活動とホームページの充実が懇談会での結論ということになるのか。アンケートの結果を見ても半数以上の方がホームページ等を充実してほしいと要望していることがわかる。今後の方針を示さないと、このアンケートをやった意味がない。また、母数が少ないものの、学生、社会人、退職後の少なくとも三つの年齢区分でアンケートを分析しないと、今後世代別のアプローチとして何をしていくかが判断しにくい。
座長	事務局としては、このアンケート結果を次期計画策定にあたっても参考にするという認識でよいかな。
事務局	ご認識のとおりである。結果だけではこのアンケートを実施した意図は分からないという意見もいただいたので、結果の公表の際には考察等も記載するか、それとも次期計画策定の本文内に掲載するかは、引き続き検討させていただく。
座長	アンケートについて他に意見はないか。

参加者	行政は計画を作りそれに則って事業を推進している。この計画は令和3年度から令和7年度の5か年計画であり、現在は最終年度に向けてのまとめをしていると思っている。前期計画での課題を受け新たに計画を策定し、事業を推進しているが、令和3年度の計画開始時から5年経過した現在どうなったかという、個人的な見解にはなるが、皆が年を重ね、若い人は入ってきていないため、後退しているように感じる。この計画にもあるが「新たな人材の発掘」に関する施策を充実してもらえるとありがたい。
参加者	アンケートの後半にある「どのような活動を行ってみたいか」や「どのようなことに力を入れるべきか」という問いがあるが、市民が生涯学習に取り組むにあたって、大卒でも今後市としてどの取り組みをやりたいかという考えはあるか。
事務局	大卒としての考え方は、確立されている。この計画は平成13年から開始し、第1次計画・第2次計画が10年間、第3次計画が5年間と、25年間この計画に沿って生涯学習を推進してきた。第1次計画は主に施設等のハード面の整備、市内の連携体制の確立等が行われ、その時から現在まで掲げられているのが「ライフステージに合った学習機会の充実」である。第2次計画ではそれにさらに地域との連携や市の魅力を伝えるための市の特色を生かした事業について記載された。第3次計画は、それらに加えて第2次計画で課題となった参加者の固定化・高齢化の解決策として新たな人材の発掘について記載がされた。今後市としては、継承されてきた事業については現場の実態に合わせた形でブラッシュアップをしていき、今回新たに課題となったものについては、解決に向けた新たな仕組みを検討していきたいと考えている。
参加者	公民館でも若い人をどうやって取り込んでいくかが課題となっており、検討している。自分は20代から地域のスポーツクラブに加入して活動しているが、地区体育祭を開催しても中心は70代であり、若い人がいない。年数を重ねてもメンバーがほとんど変わらず、高齢化で減っていくだけ。公民館の講座も、運転免許証を返納して交通手段がなく参加できない受講者や講師がおり、開催できない講座も出てきた。1日限りの地域のイベントには参加するが、サークル活動や講座には参加できない方が多く、これが公民館としても課題となっている。現在活動に参加している方の多くが団塊の世代で、そこがいなくなると一気に参加者は減ってしまうだろう。
事務局	公民館は地域に近く、地域からの意見も直接いただける。公民館でも課題解決に向けて検討を進め、市全体で連携を行いながら取り組んでいきたいと考えている。
座長	公民館で活動しているサークルや講座は昼間が多く、働いている世代は参加できない。若い世代を取り込むために、夜間の講座開催や、夜間に活動しているサークルがあると参加しやすいのでは。

	(2) 今後のスケジュールについて説明を行った。
参加者	もし第4次計画を策定するとなると、教育振興基本計画との関係はどうなるのか。
事務局	教育振興基本計画は教育全般の包括的な計画であり、生涯学習推進基本計画は生涯学習に特化した部門計画である。
参加者	内容は重複しているのか。
事務局	ご認識のとおり、重複しているところもある。
参加者	計画策定時の市民懇談会はどのような位置付けなのか。
事務局	市民懇談会の趣旨としては開催要領から引用すると、生涯学習を推進するにあたり、広く市民の意見を求めるため開催するとなっている。意見を求める事項は二点あり、一点目は計画の推進に関すること、二点目はその他市長が意見を求める必要があると認める事項である。
事務局	今回の計画策定の流れとしては、先ず事務局内で計画の素案を作成し、それを基に庁内の生涯学習推進委員会で計画案を作る。その案を市民懇談会に提出し意見を出していただき、それを踏まえて修正する。これを繰り返して完成へ近づけていくものである。
参加者	教育委員会内にある生涯学習推進委員会で計画案を作るという認識でよいか。
事務局	生涯学習推進委員会は教育委員会だけでなく、全庁的なものである。市の企画・調整役である政策企画課や生涯学習に関連する事業を行っている課の課長が参加している。
参加者	生涯学習はさまざまな部署が関わっており、結構混乱するのではないかと思います。複雑になるが頑張ってもらいたい。
座長	市民懇談会は生涯学習推進委員会で作成した計画案に対して意見をするという認識でよいか。
事務局	ご認識のとおりである。
参加者	その他の欄にある三役報告とは何か。
事務局	内部的な話であるが、市長・副市長・教育長に計画案を報告するものである。
参加者	策定の途中に報告するという認識でよいか。
事務局	三役報告の時点では、パブリックコメントに出す前の計画素案である。三役報告で三役の意向を確認し、必要に応じて修正を行う。事務局で修

正した後、庁内委員会で検討し、生涯学習推進市民懇談会で意見をいただき、最終案を固める。パブリックコメント後は、事務局で必要に応じて微調整を行い、市民懇談会へ報告をさせていただく流れになる。

4 その他

(1) 今後について
事務局より今後の予定について説明を行った。

意見、質疑なし

(2) 生涯学習アンケートについて
アンケートの公表方法について説明を行った。
意見、質疑なし

5 閉 会